

主任部長の信条は、「臨床医たるもの臨床研究をおろそかにしてはいけない。臨床研究は臨床医としての成長を助ける。」ですが、これが大阪医科大学内科学Ⅰ教室の花房俊昭前教授の受け売りであることは、糖尿病センターだよりのコアな読者ならすでにお気づきのことだと思います(糖尿病センターだより 12 号 part1 参照)。花房先生の教えに従い、主任部長はこのひらかたの地で“臨床研究”と“日常診療”的どちらも磨き続けるべく、地道に努力を重ねてきました。

さて、これから三連休が始まるという前日の晩遅くに、当院の救急外来の PHS が鳴りました。救急外来のお当番の先生が応答したところ、枚方から数時間以上かかる大阪南部の病院からの救急応需要請のお電話でした。「血糖値が 700mg/dL 以上あってケトン体強陽性、血ガス pH 6.8 で意識がありません（ものすごく重症）。糖尿病性ケトアシドーシスだと思うんですが、うちには専門医がいなくて治療が出来ません。お願ひです、ひらかたで受けて頂けませんか？」

快く引き受けてくれた当院救急外来のお当番の先生、病棟当番の先生と High Care Units（集中治療室）のメディカル

スタッフ、そして我らが糖尿病・内分泌内科スタッフのみんなの協力のおかげで患者さんは一命をとりとめました。これも 24 時間 365 日交代制で急性期医療を提供し続けている市立ひらかた病院だからこそ救えた命だと自負しています。

よくよく調べてみると、その患者さんの臨床経過は類を見ないほど特異で希少性の高いものでした。そして、糖尿病の診療に関わる全ての医療従事者にとって教訓となるエピソードを含む臨床経過でもありました。“これは世の中に伝えないといけない” そう思った主任部長、患者さんの同意を得たうえで、その経過を学会発表し (糖尿病センターだより 17 号 part1 参照)、英語症例報告論文として報告致しました。

A case of slowly progressive type 1 diabetes accompanied by positivity for a single islet cell antibody, initially suspected to be childhood-onset type 2 diabetes or maturity-onset diabetes of the young. Diabetology International

Published 12 July 2025

DOI <https://doi.org/10.1007/s13340-025-00835-9>

Diabetology International から Accept（就活生でいう“オファーメール”）を貰った時は、主任部長…感無量でした。忙しい日常診療の合間を縫って原稿を準備し、土日祝日も自宅で作業を続けた甲斐がありました。主任部長、この論文原稿を作成する期間はいつも「どこにも遊びに行きたくないし、（家事以外）何にもやりたくない病」にかかるみたいで（笑）、娘たちから「ママ、またいつもの病気にかかってるから」とさりげなく気遣って貰いました。ありがとう娘たち。

この症例報告論文を作成する過程は、他では決して得ることのできない深い学びを私にもたらします。試行錯誤して文体を整え、行きつ戻りつ文章の推敲を重ね、論理の展開に無理はないか自問自答し、少しの疑問も残さず調べ尽くし、何か月もかけて論文を作成する、その過程そのものが私を成長させてくれます。「臨床医たるもの臨床研究をおろそかにしてはいけない。臨床研究は臨床医としての成長を助ける。」花房先生のお言葉は本当だったのです。

ただし、0から1を生み出すこの作業は、恐ろしいほどの労力と時間を必要とします。気力・体力と共に、“必ず完成

させてみせる”という情熱も必要ですし、症例報告論文を作成するための基礎知識、論文執筆のための技術と経験の必要性は言わずもがなです（情熱だけでは前に進みません）。せっかく作成した論文原稿を英文医学雑誌に投稿し、reject（就活生でいう“お祈りメール”）が来た時には本当にがっかりですが、くじけずに最後まで頑張り通す気持ちも必要です。

完成し、電子ジャーナルで公開された論文を患者さんにお見せしました。患者さんは「おお～、（英語なんで）全然わかりません（笑）。」とのことでしたが、満面の笑顔で「世の中の先生方が私のことを勉強して下さるなんて嬉しいです。」と仰って下さいました（注：症例報告論文では一切の個人情報は秘匿されます）。

「臨床医たるもの臨床研究をおろそかにしてはいけない。臨床研究は臨床医としての成長を助ける。」この言葉を胸に、主任部長は、このひらかたの地でこれからも頑張ります。本症例報告論文の作成に関わったすべての方々に厚く御礼申し上げます。ありがとうございました！！